

平成27年10月7日

うつくしまふくしま未来支援センター

南相馬市農地再生協議会及び太平洋セメント株式会社と共同研究を開始 —エネルギー作物生産と油脂作物生産を組み合わせた農地再生モデル—

福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの食・農復興支援担当（石井秀樹 特任准教授）は、ソルガム等のエネルギー作物生産とそのメタン発酵、ならびに菜の花などの油脂作物の生産を複合的に組み合わせた農地再生モデルの共同研究契約を太平洋セメント株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：福田修二）と締結し、南相馬市農地再生協議会の協力を頂きながら試験研究を開始しました。

メタン発酵やバイオディーゼル生産を目的としたエネルギー作物の栽培は、すでに国内外を問わず、世界各地で行われ、基礎的知見が得られています。しかしながらエネルギー作物の生産に特化した事業で採算を得るには、500~1000ha 規模の事業展開が必要であり、日本での導入可能性が低いのが実情です。

一方、本共同研究では、エネルギー作物生産と菜の花などの油脂作物生産と組み合わせることに独自性があります。複合的・重層的な土地利用を図ることで、①転換作物栽培による収益、②菜の花栽培における連作障害の回避、③播種期・収穫期の分散に伴う設備投資費の抑制、などが期待され、エネルギー作物生産、あるいは菜の花栽培に特化した事業展開よりも、小規模での事業化が成立すると考えております。

現在、南相馬市内の圃場では、既にソルガムの栽培・収穫が行われ、その生育評価や収量評価を終えました。現在は、南相馬での土地利用の現況調査を進めております。今後は、単位面積当たりのバイオマス、ならびにエネルギー発生量を評価し、南相馬市の土地利用現況を踏まえて、事業化ポテンシャルを試算します。また地元の南相馬農地再生協議会には、圃場現地の栽培管理を担って頂いておりますが、耕作作業の効率化、および菜の花などの油脂作物を交えた輪作体系の検討なども進めていきます。

こうした事業モデルの検討は、東日本大震災の影響で低・未利用となった農地の保全・活用・再生において、重要な示唆が得られると期待されます。

(お問い合わせ先)

うつくしまふくしま未来支援センター

石井秀樹

電話：024-548-8386

E-mail: r641@ipc.fukushima-u.ac.jp